

海洋底探査センター運営委員会（第22回）議事要旨

1. 日 時 平成30年2月23日（金） 10時55分から11時40分まで
2. 場 所 海事科学研究科 第二会議室（深江キャンパス）
出席者 巽 好幸教授（センター長・委員長），若林伸和教授（副センター長・部門長），
島 伸和教授（部門長），鈴木桂子教授（部門長），両角春寿特命教授（部門長），
久保木一浩准教授（理学），喜多 隆教授（工学），西尾 茂教授（海事科学），
小田啓二副学長
欠席者 河口信義教授（部門長）
陪席者 合田事務長，小田事務長補佐，芝田専門職員，藤井専門職員

3. 審議事項

(1) 文部科学省・共同研究拠点申請について（資料2）

巽委員長から、資料2に基づき平成31年度の共同研究拠点の概要について説明があり、海洋底探査センターとしては、平成34年度申請へ向け、現在連携協定を締結しているJAMSTEC、JOGMEC、高知大学海洋コア総合研究センター、京都大学防災研究所のほか、東京大学地震研究所、九州大学地震火山観測研究センター等との連携も検討しながら、準備を進めていく旨の説明があり、審議の結果、承認した。

また、共同研究拠点申請には、他機関等との連携等の実績が重要であることを確認した。

(2) センター長候補者の選考について（資料3）

巽委員長から、現センター長の任期が平成30年3月31日までとなっているため、後任のセンター長候補者について資料3に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

(3) 副センター長候補者の選考について（資料4）

巽委員長から、現副センター長の任期が平成30年3月31日までとなっているため、後任の副センター長候補者について資料4に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

(4) 部門長候補者の選考について（資料5）

巽委員長から、現部門長の任期が平成30年3月31日までとなっているため、後任の部門長候補者について資料5に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

(5) 講師（研究機関研究員）候補者の選考について（資料6）

巽委員長及び島委員から、講師（研究機関研究員）候補者について資料6に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

(6) 海洋底探査センター研究支援基金について（資料 7）

異委員長から、海洋底探査センターの研究推進、人材育成、非常勤研究員等の長期雇用に必要な財源を外部に求めるための方策の一つとして、海洋底探査センター研究支援基金の設置を検討している旨の説明があった。

続いて、資料 7 に基づき神戸大学基金の中に海洋底探査センター単独の基金（募金）を設置することについて説明があり、審議の結果、原案のとおり申請することを承認した。

(7) 平成 29 年度部局年次計画重点事項の実績報告等について（資料 8）

異委員長から、資料 8 に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

(8) その他

なし

4. 報告事項

(1) 平成 31 年度概算要求及び平成 30 年度事業計画について（資料 9）

異委員長から、資料 9 に基づき報告説明があった。なお、学長、理事等のヒアリングにおいて、センター運営等に必要経費の既定予算化について要望した旨の報告があった。

(2) 海事科学研究科（深江キャンパス）2 号館北棟改修工事に伴う海洋底探査センターの研究室等のスペースについて（資料 10）

異委員長から、資料 10 に基づき深江キャンパスにおける海洋底探査センターの研究スペースの有効的な配置について、海事科学研究科長と協議している旨の報告説明があった。

(3) 深江丸探査航海の成果について（資料 11）

異委員長から、資料 11 に基づき深江丸探査航海の成果として、2 月 8 日（木）に「鬼界海底カルデラ内世界最大級の溶岩ドームを確認！」をプレスリリースした旨の報告説明があった。併せて、英国 Nature Publishing Group のオンライン科学雑誌「Scientific Reports」に掲載され、反響が大きかった旨の報告説明があった。

(4) 平成 29 年度深江丸探査航海について（資料 12）

異委員長から、資料 12 に基づき第 1 回探査航海の実施結果について報告説明があった。また、第 2 回探査航海を平成 30 年 3 月 2 日から 3 月 14 日の間で予定している旨の説明があった。

(5) 平成 29 年度公開海洋底探査実習について（資料 13）

島委員から、資料 13 に基づき平成 29 年 9 月に実施した「深江丸公開海洋底探査実習」の実施状況について報告説明があった。他大学（6 大学）、学内（3 学部）の学生 20 名が参し有意義な実習となった旨の説明があった。

(6) 海洋底探査センターの広報活動等について（資料 14）

異委員長から、資料 14 に基づき報告説明があった。

(7) その他

1) 火山研究人材育成コンソーシアム構築事業共同実施に係る「次世代火山研究者育成コンソーシアム」について

異委員長から、東北大学が中心となって実施しているコンソーシアムについて、平成 30 年 4 月から、参加機関（現在は協力機関）として事業に参画していくことになった旨の報告説明があった。